

## 展示会開催し「絹のまち」発信 着物をアロハにリメイク

岡谷(長野県)

岡谷商工会議所女性会は7月4日、23日、絹の着物を仕立て直したアロハシャツなどを展示する「着物でアロハ展」を岡谷蚕糸博物館宮坂製糸所ギャラリーで開催した。岡谷市は製糸産業で栄えた「絹のまち」であり、その歴史と絹文化を後世に伝えようと、同女性会は2005年に「甦れ!絹の街プロジェクト」を開始。07年に会員らがたんとすに眠っていた着物をアロハシャツにリメイクし、県内の商工会議所女性会が集まる研修会で着用したほか、市民らを対象につくり方の講座を開催するなど絹のま



▲手づくりのアロハシャツ。和裁・洋裁の経験がない会員らが苦労して縫製(写真提供:岡谷市民新聞社)



▲10月に開催する創立30周年記念式典で着用するジレ

ちをアピールしてきた。

今回の展示会は、10月に開く女性会創立30周年記念式典のプレイベント。これまでの活動を振り返り、07年に製作したアロハシャツ12点と一昨年から昨年にかけて製作したジレ(ロングベスト)3点などを展示した。作品に使われた着物は、大正・昭和時代に女性が普段着として着用していた銘仙などだ。ジレは式典でも着用し披露する。同女性会の矢崎京子会長は「使わない着物がすてきに生まれ変わること、多くの人に知ってほしい。今後も絹文化の振興に寄与したい」と話している。

11月2、3日には東京の長野県アンテナショップ銀座NAGANOで、市が岡谷シルクのイベントを開催。女性会は広く来場を呼び掛けている。

## 明智光秀テーマの盆踊り創作 大河ドラマ放映に向け地元盛り上げる

可児(岐阜県)

可児商工会議所女性会は、戦国武将・明智光秀をテーマに可児市が制作したオリジナルソング「麒麟児・みつひでクン」に合わせた盆踊りを考案し、6月25日に市役所で披露した。同市は明智光秀出生の地とされており、2020年1月から光秀が主人公のNHK大河ドラマ「麒麟がくる」が放送されるのを前に、盆踊りで地元を盛り上げようというものだ。

オリジナルソングは「およげ!たいやきくん」などを手掛けた佐瀬寿一さんが作曲し、作詞と歌はシンガーソングライターの佐藤梓さんが担当。健康体操講師の坂井久子さんが、「まるいえがお、しかくいえがお」や「おにぎりえがお、いがぐりえがお」などの歌詞に表情豊かな振り付けを付けた。2本の指でピースする振り付けは、平和な世の中であるようにとの思いを込めている。



▲市役所で富田成輝市長(右から2人目)と共に「麒麟児・みつひでクン」を踊る女性会メンバー

布したほか、「可児夏まつり」に向け市総合会館で行われた盆踊りの市民練習会で、市民への周知を図った。練習会は2回開催され、初回は約90人が参加した。8月10、11日に開催された夏まつりでは、2日間で延べ41人の女性会メンバーが市民らと共に踊りを披露した。同女性会は、「とても楽しい踊り。老若男女に楽しんでほしい」と、今後も踊りを通じて可児のPRが図れるよう活動していく。

笠岡(岡山県)

## 夏の恒例、手踊り大会に参加 「石の文化」日本遺産認定もアピール

笠岡商工会議所女性会は7月20日、笠岡市の夏の恒例手踊り大会「笠岡よっちゃれの夜2019」に踊り連として参加した。「笠岡よっちゃれ」は1984年、笠岡郷土民謡に振り付けて誕生した踊りで、「港町笠岡の皆さん、寄っていらっしやい」「笠岡は幸せで良いところ」などの意味が込められている。毎年市内から集まった踊り連が、さまざまな衣装をまとって踊る華やかなイベントだ。以前は商工会議所がイベントの事務局を務めていたため、女性会は2001年の発足時から地域活性化の一助

にと毎年参加。昨年は最優秀賞を受賞している。

今回は、市民団体や職場グループなど26チーム、1278人が参加し、会場となった笠岡市役所前県庁通りには約4千人の観客が訪れた。同女性会からは29人が参加。今年5月に笠岡市を含む瀬戸内2市2町の石の文化が日本遺産の認定を受けたことを記念して、昨年の衣装に「祝日本遺産認定」の文字などを盛り込んだ衣装で2連覇に挑んだ。惜しくも連覇はかなわなかったものの「豪華絢爛大賞」を受賞。参加会員らは「全員が気持ちを一つにして楽しく踊れた」と話している。会員同士の絆を強めるとともに同女性会のPRにもなったようだ。



▲踊り歩く女性会メンバー



▲笠岡市北木(きたぎ)島の採石場の写真と「祝日本遺産認定」の文字を背に加えた今年の衣装

伊予(愛媛県)

## 夏祭りでもオリジナルジュース販売 にぎわい創出の一助に

伊予商工会議所女性会は7月28日、伊予市の夏祭り「伊予彩まつり」に出店し、飲み物などを販売した。伊予彩まつりは毎年7月の最終土・日曜日の2日間開催される市の一大イベントで、「伊予おどりパレード」や花火大会などさまざまな催しが行われ、大勢の市民でにぎわう。同女性会は祭りの実行委員会に属しており、祭りを盛り上げるため2012年から花火大会開催日に行われる「郡中レトロカフェ&バザール」へ毎年出店。伊予鉄郡中港駅やJR伊予市駅か

ら会場へ向かう国鉄通り商店街の一角で販売を行っている。

販売商品は、女性会オリジナルの「ミックスジュース」「赤しそジュレソダ」と「杏仁豆腐」。ジュースとソーダは山崎由紀子直前会長が出店当初に考案したもので、今ではリピーターが続出しているという名物だ。今回は午後4時から販売し、午後8時には完売。約200人に販売した。収益金は女性会の活動資金に充てられる。

「市民の皆さんに女性会を知ってもらおうと同時に来場者に喜んでもらうことのできるモチベーションを高めよう」と始めた事業。今後も継続したい」と同女性会、ほかにも8月のフリーマーケット出店、講演会などさまざまな活動を行っている。



▲左から、モモやバナナでつくるミックスジュース、杏仁豆腐、赤しそジュレソダ



▲ブースでジュースづくりをする女性会メンバー

員は、モチベーションを高めようとした事業。今後も継続したい」と同女性会、ほかにも8月のフリーマーケット出店、講演会などさまざまな活動を行っている。